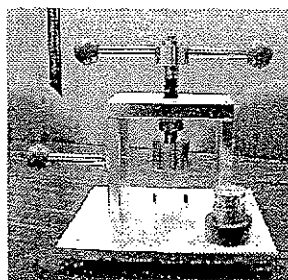


コイン電池分解容易に

10〜15秒で処理 京浜理化が装置

京浜理化工業(東京都大田区、佐瀬都司社長、03・3745・013)は、カメラなどに使用するコイン電池を半分に分解する装置「コイン

セル分解機Ⅱ写真」を発売した。電池の研究者が充放電後の電極の様子を観察し、耐久性を確認するなどに使う。これまではペンチなどでこじ開ける手間がかかっていた。同製品は一つ当たり10〜15秒で処理でき、ショートする心配もない。価格は25万円、初年度30台の販売を見込む。



本体主要部分のサイズは縦、横、高さがいずれも200ミリ。コイン電池をセットしてハンドルを回す。治具がコイン電池上下の接合部を押し広げて開封、分解する。分解するための治具を取り換えることで直径2ミリ〜50ミリの電池を分解できる。同社は77年に設立。圧力容器を中心に、大学や大手企業の研究所に実験用器具を納めている。